



著者
インタビュー

「介護の仕事はただ大変とか、よく分からないというイメージが強いようなので、全く介護を知らない人が何だか面白そうと思うてもらえるような本にしたいと思って描きました」

著者の津田さんは現在、週2〜3日ホームヘルパーとして働くイラストレーター兼デザイナー。本書は、10年にわたる介護職経験を綴ったコミックエッセイだ。

デザイン事務所に勤めていたころ、パソコンに向かい「どうしたら商品が売れるか」ばかり考えて煮詰まっていたという。そんな時、辺境を旅して医療を提供する医師のドキュメンタリーを見て、「直接、人に関わる仕事がしたい」と考えたのがヘルパー資格を取るきっかけになった。

いけず、厳しい先輩介護職に怒られては陰でこっそり泣く毎日。「辞めたかったんですけど、それすらも怖



津田 かつりさん

ソードが満載だ。悩める著者の様子もユーモラスに描かれていて、ほっこりさせられる。

自称「どちらかというと気弱なタイプ」。でも「すぐに辞めたら何をやってもダメになると思って、半年は頑張ろうと腹をくくりました」。結局、特養には3年半務め、その後訪問介護で7年働くベテラン介護職に。「打たれ強くなり、成長できました」と話す。

施設と在宅、両方の現場を体験してみて、より魅力を感じているのは訪問介護だという。

「ゴミの捨て方やお風呂の洗い方など、いろんなやり方や考え方があって、暮らし方もそれぞれ違う。一方で、みんな同じだと感じるところもあります。そのうち介護に絶対的な正解なんてないんだと気付きました。1人ひとりの方とコミュニケーションを取りながら信頼関係を結んでいく過程に面白さを感じています」

気弱な私が打たれ強く「介護の仕事で成長」描く

最初に勤めたのは、自宅近くの特養。仕事のテンポについて



「見せたがり」の男性利用者への対応に戸惑った

経験者が読めば「あるある」と共感できるエピソード

先日、読者から一通のメールが届いた。まんがを読んで介護職になる決心をしたという内容だ。「うれしかったですね」。笑顔が弾けた。

1200円＋税

(産業編集センター) 03-

5395・6133)

Go Go! 介護